# プリンセス 小公女セーラ

## 第23話

## 『親切なパン屋さん』

AR台本

企画
制作 日本アニメーション株式会社

プリンセス

# 小公女セーラ

## 第二十三話　『親切なパン屋さん』

### 登場人物

セーラ……………島本須美
ベッキー…………鈴木三枝
ラビニア…………山田栄子
ジェシー…………飯塚はるみ
ガートルード……佐々木るん
アーメンガード…八百板万紀
ロッティ…………渡辺菜生子
ミンチン…………中西妙子
アメリア…………梨羽由記子

モーリー……………向殿あさみ
ジェームス……………郷里大輔
パン屋(女将)………
パン屋(主人)………
司祭……………
少女……………
レストランの客達……………
生徒達……………

| カメラ | 画面 | 音声 |
|---|---|---|
| 1 | 末だうす暗い朝　雨が降ってい<br>る　葉からしたり落ちる雫<br>木の幹を雨水が伝っていく<br>小鳥が一羽、雨をよけるように<br>とまっている<br>セーラ部屋の窓が見える<br>その窓の軒の下に、二羽の親子<br>鳥が身を寄せ合っているのが見<br>える<br>木の枝の一羽　奥へ飛んで行く | |
| 2 | ピヨピヨ鳴いている親子<br>飛んで来る一羽<br>ぶるぶる羽を振る　飛びちる雫<br>雫がかかるので、親が子をかば<br>う　三匹、身を寄せて鳴く<br>軒を伝ってしたたり落ちる雫<br>下をのぞく小鳥一家　親鳥、下<br>へ飛んでいく | セーラ(off)「ごめんなさい……メル」 |
| 3 | 親鳥　窓下に来て止まり、中を | セーラ　「……私、あなたたちにあげるパンク |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | のぞく　セーラが穴を見ている<br>穴にメル一家が見える | | ズ、ひと切れも、<br>～<br>持って来られないの……」 |
| 4 | 力なく床にへたりこんでいるセーラ　手にエミリーが抱かれている　がっくりと首を落とす | | |
| 5 | セーラ　力なく、ぽつりぽつりと言う<br>穴の中に一家　首をかしげるメル | | セーラoff「……みんなお腹空かしているのに……」 |
| 6 | 床に座り、エミリーを抱いているセーラ　前にメル | | セーラ「……見ていたでしょう？　メル、……私たち、この間ここで秘密のパーティ<br>～<br>を開いたのが見つかって……」 |
| 7 | 力なくうなだれているセーラ | | |
| | O・L | | |
| 8 | 紙クズが大きく燃え広がる | | |
| 9 | 炎のてりかえしが、室内に反映する　セーラ、見上げる | | セーラ「天井にはシャンデリア」 |
| 10 | 炎の反映 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 三人　天井を見あげる | | |
| 11 | 宮廷の天井　シャンデリア　F・I　と現実の天井のダブラシ<br>↓PAN<br>セーラ　手を差しのべる | | セーラ(off)「ここは、宴会の大広間よ。そして、私達は美しい侍女なのよ」 |
| 12 | 現実　BG<br>セーラの手（侍女衣裳）になる<br>アーメンガード、ベッキー、ロッティ　立ちあがっている<br>（一同、奥に廻ってにっこりする）<br>アーメンガード　セーラの手をとって、引きよせられる | | セーラ　「さあ、大広間の方へ……」 |
| 13 | 大広間に大きなテーブル<br>豪華な食事が並び、しょく台が明るく照らす　奥に舞台 | | セーラ(off)「丸天井で吟遊詩人の歌う舞台もあるの」 |
| 14A | ベッキー、アーメンガード、ロッティたち、夢心地 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 14B | まわりをめぐらすセーラ | | |
| 14C | 宮廷　ＢＧ　大宴会場<br>ラッパの兵隊　かしずく貴婦人達<br>ＰＡＮ↙ | | |
| 14D | 眼を見張る一同　ＰＡＮ← | | セーラ　「さ、国王とマリーアントワネットが、<br>大広間にお目見えになるわ！」 |
| 14E | 扉にＴ・Ｕ　かしずく貴婦人達<br>脇の扉　開かれる | | ミンチンの声「なにをしているのです！」 |
| 16 | 力なくうつむいているセーラ<br>力なく顔を上げてメルを見る | | セーラ　「……あれから……私もベッキーも、<br>ずっと食事を減らされているの……<br>だから、メル、<br>あなたたちにも…何ひとつ持って来て<br>あげられないの……」 |
| 17 | メル　怪訝に鼻をうごめかす<br>穴の子供たち…啼いている | | Ｓ・Ｅ　（鳴き声） |
| 18 | セーラ　悲しげな表情一層強くなる（鳴き声にメルから奥の穴の方へ目線を送る）<br>がっくりとなるセーラ | | セーラ　「……セーラ、悲しそうにうつむき、<br>大きく息を吐く（溜息）……判って頂<br>戴……」 |

| | |
|---|---|
| 19 | 鼻をうごめかしていたが、キョトンとしてセーラを見るメル |
| 20 | うなだれているセーラ |
| 21 | うなだれているセーラを凝っと見つめているメル |
| 22 | メル　キョトンと見ていたが、横を向き、あたまをかかえて考えこむ<br>ややあってから、セーラの方を見る　くるりと穴の方を向いてチョロチョロといくメル |
| 23 | 手前を見つめている一家<br>奥へ行くメル　振り返り振り返り、穴の方へ向う<br>母仔ネズミ　引っ込むが、チビネズミ　メルの横をすり抜けてチョロチョロと手前に来る<br>A・C |
| 24 | チビ　後脚で立って、手をこす |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | り、セーラを見上げる | | |
| 25 | セーラ「?!」となり見る | | |
| 26 | 鼻をうごめかしていたが、尾を<br>引っぱられるチビ<br>負けじと踏んばるチビ | | |
| 27 | メル　チビの尾を引っぱる<br>暴れるチビ<br>穴の中へ引きずり込まれるチビ | | |
| 28 | セーラ　悲しげに見つめていた<br>が、がっくりとなる | | |
| | A・C | | |
| 29 | ガックリとうなだれるセーラ | | |
| 30 | 窓の外　雨　のぞいている小鳥 | | |
| 31 | うづくまるようにして、雨を避<br>けている母子鳥<br>雨　降りつづいている | | |
| | O・L | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 32 | セーラ　うづくまっている<br>セーラ　扉の方向く<br>O・L | | S・E　（雨の音・ノックの音）（カット尻） |
| 33 | 扉（ベッキーの声、ひそやかに） | | ベッキーの声「お嬢様、お嬢様、お目覚めですか……!!」 |
| 34 | セーラ　力ない笑顔になる<br>呟く<br>立ち上る（力なく） | | セーラ「ベッキー……！」 |
| 35 | 扉の前に立っているベッキー<br>大きな欠伸をする　眠そうである<br>ドアを開いて、セーラ出てくる<br>手を口から下に降ろすベッキー<br>力のない声で<br>たずねるセーラ<br>答えるベッキー<br>眉を曇らせるセーラ | | ベッキー「……あ…あ……!!」<br>S・E（ノブを回す音）<br>ベッキー「お、お早ようございます。お嬢様…」<br>セーラ「どうしたの、その声……」<br>ベッキー「いえ、お腹がすきすぎて……こんな声しか出ないんですよ…」<br>セーラ「まあ……」 |
| 36 | おなかのへっている状態を、笑顔で明るくごまかすベッキー | | ベッキー「昨夜も、夢に出てくるのが食物ばっかり……とても寝られませんでした…」 |

| | | |
|---|---|---|
| 37 | 苦笑するセーラ<br>ベッキーの方へ顔を突き出し、<br>明るい顔でいうセーラ<br>驚くベッキー<br>頷くセーラ　一瞬顔を見合せる<br>二人　顔がほころぶ<br>笑い出す二人　だが、力ない笑<br>いである<br>はっとなって口をおさえる二人<br>セーラをうながして、部屋の中<br>へ | セーラ「まあ、ベッキーったら……、でも本<br>当云うと、私もそうだったの……」<br>ベッキー「お嬢様も…！」<br>セーラ「ええ……」<br>ベッキー「お嬢様！」 |
| 38 | 部屋の中　入ってきて、ドアを<br>閉めるベッキー<br>内緒話でもするかのように、セ<br>ーラに顔を寄せて話すベッキー | ベッキー「早く着替えて下さい。下へ行って、<br>なにか食べるものを探すんです」 |
| 39 | びっくりするセーラ<br>思わずこっくりと頷くセーラ<br>ニヤリと笑うベッキー（いたず<br>らっぽく） | セーラ「そんな……！」<br>ベッキー「大丈夫です。私にまかせて…！」 |
| 40 | 台所 | |

| | | |
|---|---|---|
| | ドア開いて（静かにだが敏速に）入ってくるベッキー、セーラ、戸棚の方へ行くベッキー、セーラ | |
| 41 | しゃがみこみ、扉を開けるベッキー　中をのぞきこみ始めは、ちょっと心配げに見ていたが、ベッキに近よるセーラ | ベッキー「ええと、昨夜の残り物が、確かこのへんに……」<br>セーラ「やめて、ベッキー……」 |
| 42 | セーラを見るベッキー<br>扉を閉めて急いで立ち上る | ベッキー「…お嬢さん、ある筈ですから……」 |
| 43 | 心配げな表情のセーラ | セーラ「……私…なんとか我慢出来るわ…」<br>S・E㊀（扉のひらく音・ガチャ） |
| 44 | カサゴソと探しているベッキー<br>急いでいる | ベッキー「いいえ…お嬢様が我慢されても……<br>〜<br>この私のおなかが、言う事を聞かないんです……ええと……」 |
| 45 | 扉を閉めて立ち上るベッキー<br>腹をたたきながら<br>手前を見るベッキー<br>急いで手前に来るベッキー | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 思わず前に出るセーラ　止めようとして叫ぶ | | セーラ「……ベッキー！」 |
| 46 | ベッキー　びっくりして振り返り、大仰に「しーッ」とやる | | ベッキー「シーッ!!」 |
| 47 | 「はっ」となるセーラ<br>あわてて口を覆い、クスンと笑う（身を縮めるように肩を上げ首をすぼめるように、いたずらっぽく笑う） | | |
| 48 | つられて含み笑いをするベッキー<br>ベッキー　くるりと振り返り、戸棚の上を確認しながら大きく頷づき、急いでしゃがみこむベッキー | | ベッキー「へへ……」 |
| 49 | 勢良く扉をあけて、中をのぞき込み、首を突っ込むベッキー<br>思わず声をあげる | | ベッキー「（AD）え…と…これ…違う…いつも……この辺りにあったのに…知ってるんだから…あッ！」 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 50 | にこりとして身をのり出す | | |
| 51 | チーズ入れを持って起き上るベッキー　いたずらっぽく笑い顔で「さっ」と近づくセーラ<br>額を寄せ合って「ニータッ」と笑い合う二人　パっと蓋をとるベッキー「アっ」となる | | ベッキー「へへへ…ありました……！」<br>セーラ「大丈夫かしら…?!」<br>ベッキー「まだ起きてくるまでには……」 |
| 52 | 中に何も入っていない　アっとなるセーラ | | |
| 53 | がっくりとする二人　顔を見合せる　大きく溜息をつくベッキー<br>「アッ」となるセーラ、ベッキーをいたずらっぽくにらむ（私たちだってそうよ。人のこと言えないわ）<br>クスンと笑うベッキー<br>セーラの手にチーズ入れを渡して急いでoutしていく | | ベッキー「…フー!!　ジェームスさん。……あの人、喰いしん坊なんだから…」<br>ベッキー「…これ、お願いします！」 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | あきれ顔のセーラ、しゃがむ | | |
| 54 | 鍋に寄ったベッキー、振り返り<br>フタに手をかけ、にっこりする<br>（フタをとるときのみ鍋を見て<br>すばやくセーラの方を見る）<br>鍋を開けるベッキー | | S・E off（戸棚の扉の閉る音）<br>ベッキー「お嬢様！　ここ、ここ……」 |
| 55 | セーラ　小走りに来ながら、二<br>人、満足そうにうなづき合い、<br>のぞく　「?!」となる<br>がっくりとうなだれる二人、中<br>には何もない | | セーラ「そう…！　鍋、それは片付けなかっ<br>たわ…」 |
| 56 | 鍋のフタ　落す<br>音を大きくたてて落ち、転がる | | S・E（〔なべに関する音、ややオーバーに<br>すること〕ガシャーン） |
| 57 | 「ギョ」となり振り返る二人 | | 二人「アーッ！　グェ〜ッ！」 |
| 58 | 転がっていくフタ<br>手前から走ってくるベッキーの<br>足　フタ、戸棚にぶつかる | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 59 | 戸棚に当たり、手前に止まる<br>飛びこむようにして、蓋を押えるベッキー<br>ほっとして、大きく息をして、がっくりとなるベッキー | | ベッキー「フーッ」<br>←〜〜〜〜〜〜 |
| 60 | セーラ　走って来て、素早くそう〜と扉を開けて、廊下をうかがう<br>ひそやかに閉めた扉に、「ほっ」とした表情で寄りかかるセーラ<br>顔を上げるベッキー<br>一、二歩手前に来るセーラ<br>セーラ　やさしい明るい笑顔を見せて<br>後を振り返り戸棚の方を見て | | ベッキー「…ごめんなさい！　お嬢様！」<br>セーラ　「…もう、いいわベッキー…」<br>ベッキー「よかないです。私だって、同じですから……もう一度良く探して……」 |
| 61 | ベッキー　戸棚に近寄り<br>セーラ　来て鍋のフタをテーブルに置く　しゃがむベッキー | | ベッキー「お嬢さん！　は、こっちを探して下さい！」 |
| 62 | 扉を開けてセーラの方を見る | | S・E　（扉をあける音「セーラです」） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 63 | にやりと笑って、首を突っこみ<br>探し出すセーラ | | |
| 64 | 探す二人<br>顔を見合せて、だめねというよ<br>うに首を振り合う二人<br>すぐ又、探しだす | | |
| 65 | 急いで身を起こし、蓋を開けて<br>セーラの方を見るベッキー | | ベッキー「あったあ！」 |
| 66 | 身を起こすセーラ　のぞき見て<br>にっこりする | | |
| 67 | 客器の中のビスケット | | |
| 68 | 立ち上る二人<br>器をみつめる二人 | | |
| 69 | 二人　顔を見合わせて、ニッコ<br>リとなる<br>ギクリとなる二人<br>ゆっくりと扉の方を見る二人 | | S・E　（ドアの開く音・ガチャ） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 茫然となり、顔を見合せてあわてる | | |
| 70 | モーリー 入ってくると、眼をこすりながら、ドアを閉める | | S・E （ガチャ） |
| 71 | ベッキー あわてて、カゴを後手に手前へ来る<br>カゴを受けとるセーラ | | ベッキー「お、お早ようございます。モーリーさん」 |
| 72 | モーリー 「ん」となり | | モーリー「あっ……？」 |
| 73 | セーラ 後手で戸棚にしまい、扉閉める | | セーラ 「…お、お早ようございます」 |
| 74 | 前に来てジロリと見るモーリー | | モーリー「フン、何がお早ようございますだよ。火もおこさないで……<br>一体、何をしようとしてたんだい」 |
| 75 | ベッキー どぎまぎしながらも笑顔でとり繕う<br>モーリー レンヂの方を見て | | ベッキー「いえ、今朝使う食器はどこにあるかと……」<br>モーリー「とぼけるんじゃないよ。火は点いてない、お湯も沸いてない。余計なことをするより、先にすることがあるだろ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | モーリー　カット尻　手前へ | | う！」 |
| 76 | ベッキー、セーラ　返事して | | 二人「は、はい……」 |
| 77 | ジェームスが、太欠伸をしながら入ってくる<br>モーリー　テーブルの皿などを持って右へ | | ジェームス「ファファファ……いやあ、昨夜食いすぎたせいか、気持悪くてしょうがねえや」（こぼし）←<br>「………」 |
| 78 | ベッキー、セーラ　顔を見合せて、がっくりとした表情でうなだれる | | |
| 79 | モーリー　振り返り、二人に用事を言いつける | | モーリー「ぼやぼやしないでー！　さっさと仕事にかかるんだよ！」 |
| 80 | 二人　あわてて顔を上げて返事をする（返事は元気よく）<br>セリフ尻　元気なく | | セーラ「はいー！　モーリー……さん……」 |
| 81 | 廊下　シーザー　大きく欠伸をする | | S・E（振鈴の音・カラーン、カラーン）←〜〜 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 82 | 廊下で鐘をならすアメリア | | |
| 83 | ミンチン　すましていく<br>雨が降っているのが、窓から見える　生徒たち数人が行く（ダイアナ、ジェニファー、リンダ） | | ←～～～～～～～～～～ |
| 84 | 教室内　談笑する生徒たち<br>ラビニアは教科書を片付けている | | |
| 85 | 衝立からのぞくロッティ<br>アーメンガードの方へ歩く | | |
| 86 | アーメンガードに手を上げて行くクリスティーン、出て行く<br>ロッティ　アーメンガードの近くに来る | | アーメンガード「ロッティ…」<br>ロッティ「フフ……」 |
| 87 | 楽しそうに話して笑う三人 | | 二　人「フフフ……」<br>ラビニア「ハハ……」<br>ガートルード「そんなこと」<br>ラビニア「本当よ…」 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 88 | 笑う二人 | | 二人「ハハハ……（ADLIB）」 |
| 89 | アーメンガードとロッティ、三人の方を見ている | | ← |
| 90 | ラビニア　立ち上がり | | ラビニア「じゃ、私の部屋にこない!!」<br>二人「いく、いく」 |
| 91 | ラビニアを先頭に手前へ来て、ドアの方へ向う | | |
| 92 | アーメンガードの教科書をガートルードが落していく | | |
| 93 | あわてるアーメンガード<br>止まるガートルード<br>そのままアウト | | アーメンガード「あぁッ……」<br>ガートルード「あら、ごめんあそばせ」<br>S・E(off)（ガチャ） |
| 94 | 急いで出て行く三人 | | |
| 95 | 教科書を拾うアーメンガード<br>顔を見合わせる二人 | | S・E　（ドア閉まる音・ガチャ） |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 96 | 廊下　一、二歩手前へ | | ラビニア「シィッ…来たわ」 |
| 97 | 三人なめ　地下の階段からの出<br>口　セーラが出てくる<br>重そうにバケツを置くと息をつ<br>く | | セーラ　「フーッ」 |
| 98 | 顔を見合わせる三人 | | ジェシー「フフ、おなかがすいて、フラフラな<br>のよ」<br>ガートルード「フフ、お気の毒ぅ…」 |
| 99 | セーラ　三人にふと気がついて<br>見るが、バケツを持ち上げると<br>歩いて行く | | |
| 100 | 見送った三人<br>ラビニア　二人に合図をし、二<br>人、頷くと、「ソー」ッと歩き<br>出す | | ラビニア「行くわよ」 |
| 101 | 階段を上って行くセーラ　あと<br>を尾けて行く三人 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 102 | 教室から出たところのアーメンガードとロッティ　怪訝そうに見送る | | |
| 103 | 水の入った重そうなバケツを運ぶセーラ　out する | | |
| 104 | 三階への階段を昇るセーラ<br>三人　後を追ってくる | | |
| 105 | 手前から駆け上るジェシーたち<br>てすりの方はよけようとするセーラ　バケツを大きく振り、バランスを崩す | | ジェシー「どいて！」 |
| 106 | 手から離れるバケツ | | |
| 107 | あわてるセーラ | | セーラ「ああッ！…」 |
| 108 | （ゆっくりぎみに）落ちるバケツ　向こう、駆け上るラビニアたち | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 109 | 書類を抱えて上ってくるミンチン　「はっ」となって、上を見上げる　水が落ちてくる　しばらくして、水ごとバケツがミンチンの頭上に落下する | | |
| 110 | バケツを頭からかぶっている、びしょびしょのミンチン | | ミンチン「ウワァ〜！」 |
| 111 | セーラの後方　ラビニアたち、「ハッ」として止まる　セーラ　駆け降りる　ラビニアたち、上へ駆け上り | | |
| 112 | 手すりのところからのぞくラビニアたち | | |
| 113 | 階段途中でバケツをかぶって、もがいているミンチン | | |
| 114 | セーラ　叫ぶ | | セーラ　「院長先生！」 |
| 115 | ミンチン　しりもちをつくと | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | トントンとお尻で階段を落ちてくる　そのたんびに、バケツがはねて、ミンチンの顔が見える | | |
| 116 | （フカン）廊下まで落ちたミンチン　バケツが飛んで、ミンチンが抱く格好になる | | |
| 117 | バケツを抱いているミンチン<br>首を振る　飛び散る水滴<br>セーラが駆け降りてくる<br>はっとなって、うなだれるセーラ　眼がねをなおすミンチン | | セーラ「院長先生！…」<br>ミンチン「セーラ！　あなたは何てことを！…」<br>セーラ「ごめんなさい……」 |
| 118 | 階段を駆け上ってくるロッティ、アーメンガード、アメリア<br>アメリア　びっくりして | | アメリア「お、お姉さま！」 |
| 119 | ミンチン　水をぬぐう | | ミンチン「タタタ……」 |
| 120 | ロッティ　一歩前へ進み出て | | ロッティ「セーラ・ママが、やったんじゃないわ！　ラビニアに決ってるわ！」 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 121 | 三階の手すりのところから、ラビニアたち下を見てる<br>ラビニア　パッと立つと | | |
| 122 | 自分の部屋へ走り込む残された二人、立つ<br>慌てて後を追う、ジェシー、ガートルード | | |
| 123 | ミンチンを抱え起こすセーラとアメリア | | |
| 124 | ロッティ　告げる<br>アーメンガードに同意を求める<br>ロッティ<br>半信半疑のアーメンガード | | ロッティ「ほんとよ、私、ラビニアたちが、いけない相談してるみたいだったもん！ね、アーメンガード」<br>アーメンガード「え……ウ〜ん」 |
| 125 | ミンチン　怒って、手のバケツに気がついて投げつける | | ミンチン「そんなことは、どうでもよろしい！」 |
| 126 | 転がるバケツ | | |

| | | |
|---|---|---|
| 127 | うなだれているセーラ | |
| 128 | ミンチン　アメリアに告げる<br>返事するアメリア | ミンチン「アメリア、早くモーリーを呼んで、ちょうだい」<br>アメリア「はい、お姉さま…」 |
| 129 | ドアからのぞいてるベッキー<br>パッとアウト　扉閉めて | モーリーの怒声(off)「お前は、とんでもない事をしてくれたね」 |
| 130 | 地下作業場<br>洗い場に戻るベッキー　仕事をする<br>空のバケツを持ったセーラが、モーリーに連れてこられる<br>乱暴に突き放され、床に倒れる<br>セーラ<br>モーリー　セーラを見おろして<br>セーラ　謝まる | モーリー「全く、この雨続きだっていうのに、家の中で院長先生に水をぶちまけるなんて、一体、何てことをするんだよ」<br>セーラ「すみません……」 |
| 131 | モーリー　セーラを怒鳴りまくる | モーリー「院長先生は、カンカンだからね。当分お前には、まともな食事はやれない |

| | | |
|---|---|---|
| | ギッとなって、ひとにらみしてから、出ていくモーリー<br>ドアを勢い良くバタンと閉める | から、そのつもりでおいで！」 |
| 132 | セーラ　うなだれる | |
| 133 | ベッキー　パっとセーラを、見ている<br>一、二歩近寄るベッキー | ベッキー「お嬢様……」 |
| 134 | セーラ　うなだれて、顔を上げ<br>ベッキーを見る<br>涙、一杯たまっている | |
| 135 | ミンチン　かなりひどく、クシャミをする | ミンチン「ブァ、プァ、ブァ……ブァクシュン！」<br>〜<br>ブァクシュン、ブァクシュン！」 |
| 136 | 続けざまにクシャミをするミンチン（頭から毛布をかぶっている）　暖炉で濡れた封書を乾かしているアメリア<br>ミンチン　アメリアに告げて | アメリア「お姉様、いま暖炉に火を入れましたから、もうすぐお部屋が暖まりますわ」<br>ミンチン「そんな事は、どうでもよろしい。大事なのは、その手紙です」 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 137 | アメリア　ミンチンの方を見て<br>封書を見直す<br>アメリア　確認してから | | ミンチン(off)「ブァクション！」<br>アメリア「市長夫人あてのお手紙ですのね」 |
| 138 | ミンチン　手紙の事を話す | | ミンチン「ええ…市長夫人には……プァクショイ、以前からこの学校の経営上の苦しさをお話ししてあります……。市長夫人のお力添えで、なんとか慈善団体からの援助をお願いしたいと手紙を書いたのです……アメリア、乾いたら、その手紙を出してきてちょうだい」 |
| 139 | ミンチン　アメリアに話続けて<br>返事するアメリア | | アメリア「はい」 |
| 140 | ミンチン　ふと考えて | | ミンチン「…そう、セーラにやらせて」 |
| 141 | アメリア　立って | | アメリア「私が行ってきます」 |
| 142 | ミンチン　きっとなったきつい顔して　T・U | | ミンチン「いいえ、セーラに行かせなさい……（T・U）…あの子には、この雨の中で、たっぷり思い知らせる必要がありますからね」 |
| 143 | アメリアの表情がくもる | | アメリア「お、お姉さま……！」 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 144 | 地下の廊下<br>モーリー　封書を出す | | |
| 145 | 受けとるセーラ　モーリー、言ってきかす<br>返事するセーラ | | モーリー「いいかい、院長先生の大切なお手紙なんだからね……お前は、ずぶぬれになったって、ぬらすんじゃないよ」<br>セーラ「はい、モーリーさん」 |
| 146 | 雨が降っている　セーラ、出てく　出てくるセーラ<br>カサを開く　うしろからベッキー、顔を出す | | ベッキー「お嬢様…」 |
| 147 | 泣き顔のベッキー | | ベッキー「こ、こんな雨の中を……食べるものも食べさせないでお使いに出すなんて、いくらなんでもあんまりです…」 |
| 148 | セーラ　淋しく微笑する<br>むこうをむいて歩き出す | | セーラ「大丈夫よ、ベッキー。手紙を出しに行くだけよ。そんなに心配しなくたって……いいのよ」 |
| 149 | 階段をのぼるセーラ<br>見送るベッキー | | |

| カット | 内容 | | セリフ |
|---|---|---|---|
| 150 | ベッキー　泣き顔で見送る | | ベッキー「お嬢様……」 |

〈Aパート・おわり〉

| カット | 内容 | | セリフ |
|---|---|---|---|
| 151 | 路上　雨<br>行き交う人々の足に交って、セーラの穴があいているボログツ弱々しい歩みである | | |
| 152 | ←FOLLOW　歩くセーラ<br>一度止り、弱々しく額の髪の毛を払う　お腹が減っているのです　力なく歩き始める | | |
| 153 | 雨に濡れてはがれ、ひらひらしているポスター | | |
| 154 | 手前へ歩いてくるセーラ | | |
| 155 | 歩くセーラ　風が吹き、セーラ | | |

| No. | 画面 | | 台詞 |
|---|---|---|---|
| | を濡らす　思わず身をふるわせる　ふと止まって見る | | セーラ「ウウ……」 |
| 156 | そこはレストランの前である<br>フラフラと近寄っていくセーラ | | |
| 157 | のぞいているセーラ　うらやましそうに眺め回している | | |
| 158 | テーブルの上の豪華な食事 | | |
| 159 | つま先立ちになっていくセーラの足 | | |
| 160 | 眺め回して、コクンと生つばをのみこむ | | セーラ「ゴクン！」 |
| 161 | ローストビーフの盛られた大皿 | | |
| 162 | つま先立って見ているセーラを通行人が、うさんくさそうに見て、通り過ぎていく | | 食事している人々(off)「笑い声…ハハハハホホ…<br>……！　おいしいわねえ」 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 163 | 店の中で笑う人々<br>「はっ」となって顔をそらすセーラ　あわてて後へ退く<br>A・C | | 人々「フフフ……」 |
| 164 | 後退して淋しそうにうなだれるセーラ　じろじろと見ながら行き交う人々<br>「ハッ」となり左右を見るセーラ | | |
| 165 | うなだれるセーラ（あ〜はずかしい!!） | | セーラ「いけない！　少しぐらいお腹がすいたからって、我慢出来ないようでは、天国のお父様に笑われてしまうわ」 |
| 166 | 歩いていくセーラ | | |
| 167 | セーラ　水たまりに足を踏み入れ、飛ぶしぶき<br>「はっ」となって顔を上げる<br>必死に歩くセーラ | | セーラ「ハッ！」 |
| 168 | 足が行く　靴から水がもれていく<br>FOLLOW← | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 169 | セーラ　ポラードに寄り靴を脱ぎ | | |
| 170 | 靴をもって、中から水を注ぎ出す | | |
| 171 | 汽車が行く雨の降る町 | | |
| 172 | 弱々しい顔つき　進むセーラ<br>ＦＯＬＬＯＷ　くじけちゃいけない、しっかりしろよ!!の表情<br>←ＦＯＬＬＯＷ | | |
| 173 | 歩くセーラ<br>馬車が通りすぎる | | セーラⓂ「そうだわ、こんな時は、何か楽しいことを想い出すことだわ。そう、インドのことがいいわ。暖かい太陽がいつもふりそそいでいたあのインド。そして、いつももぎたての果物やパンが……ダメだわ、どうしても食べ物の事を想い出してしまって……。そうよ……もしも私に今、銅貨一枚あったら、焼きたてのぶどうパンが買えるのに……アッ……」 |
| 174 | 「はっ」となって止るセーラ<br>とまどいを振り拭うように<br>少し楽しい顔をして　Ｔ・Ｕ<br>「ハッ」として黙りこむセーラ | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 175 | セーラの足元　←PAN<br>一枚の銀貨が落ちている | | |
| 176 | 四ペンス銀貨 | | |
| 177 | セーラ　凝っとその銀貨を見る | | |
| 178 | 雨の中を行き交う人々　走る馬<br>車 | | |
| 179 | ←C－PAN　立っているセー<br>ラ | | |
| 180 | 銀貨を踏みつけて行く通行人 | | |
| 181 | 見つめているセーラ | | |
| 182 | セーラの足　一歩、二歩とため<br>らいがちに、近づいて行く | | |
| 183 | 銀貨にT・U<br>セーラの手がひろう | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 184 | セーラ　拾い立ち上がる | | |
| 185 | 手の上の銀貨 | | |
| 186 | セーラ　銀貨を見つめて、周囲を見る | | セーラⓂ「銀貨だわ……それも四ペンスも！」 |
| 187 | お金を持ってキョロキョロする<br>セーラを気にとめる人もいない<br>いそがしく通りすぎてゆく | | |
| 188 | セーラ　ふと下手を見る | | |
| 189 | パン屋のウィンドーの中、おかみさんが、焼き上ったパンを並べている | | |
| 190 | 湯気の立ったぶどうパン | | |
| 191 | セーラ　思わず見とれて前に出て、生唾を呑み込む | | セーラ「ハアー、ゴックン！」 |
| 192 | 進もうとして、一歩踏みとどま | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | るセーラ | | |
| 193 | パン屋を見ていたセーラ　手の掌の銀貨を見る<br>「ハッ」となる<br>手の銀貨を握りしめる | | セーラ「ハッ！　いけないわ!!　これはきっと……誰かが落したものよ……それを黙って使っては……」 |
| 194 | 凝っとパン屋を見つめているセーラ | | |
| 195 | 窓越しのパン屋 | | |
| 196 | 降りしきる雨　アスファルトに雨が流れていく | | |
| 197 | 雨　ガス灯からしたたり落ちる雫 | | |
| 198 | パン屋の前で立ちつくすセーラ<br>通り過ぎる女の人 | | |
| 199 | | | S・E (off)（ガチャ） |

| | | |
|---|---|---|
| | パン屋　おかみさんが振り向いて、「?!…」と見る | おかみさん「いらっしゃ〜い」 |
| 200 | 薄汚ないセーラが、静かに入ってくる | |
| 201 | セーラ　扉をしめ、振り返り、一寸店内を見廻し見る | S・E「ガチャ」 |
| 202 | パンの並んだ棚 | |
| 203 | パンを見つめるセーラ | |
| 204 | おかみさん　怪訝にセーラを見たが、すぐ人の良さそうな笑顔で前に出ていく | おかみさん「へへ……」 |
| 205 | セーラに近づくおかみさん | おかみさん「何にします?」 |
| 206 | セーラ「ハッ」となって、おばさんを見る | セーラ「いえ…パンを買いに来たんじゃないんです」 |
| 209 | おかみさん「?」となる | |

| | | |
|---|---|---|
| | セーラ　掌を開いて説明する<br>のぞくおかみさん<br>びっくりしたように<br>おかみ　おどろきつつたずねて | セーラ「これが、お店の前に落ちてたもので<br>すから…」<br>おかみさん「それで？……」<br>セーラ「きっとこちらへ見えたお客さまが、<br>落としたのではないかと思って…。<br>…それで、わざわざ届けてくれたのか<br>い？」 |
| 210 | にっこりと叩頭するセーラ | セーラ「ええ……落とした方が、お困りにな<br>ってるのではないかと……」 |
| 211 | おかみさん　セーラをつくづく<br>と見る　やがて、ニコリとなる | おかみさん「そりゃ、あんたのものだよ」 |
| 212 | びっくりするセーラ | セーラ「え？」 |
| 213 | おかみ　セーラに銀貨の所有権<br>を勧める<br>セーラ　ためらって | おかみさん「その四ペンス銀貨がね……あんた<br>に拾って欲しいって、わざわざ、そこ<br>に落ちていたのさ」<br>セーラ「そんな…」 |
| 214 | やさしく笑みを含んだ顔で、セ<br>ーラをのぞきこむおかみ | おかみさん「あんた、おなかすいてるんだろう<br>……？　かまわないから、そのお金で |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | | なにか買っておあがり。うちのパンでよかったら、どっさりおまけしてあげるよ」 |
| 215 | 首を振って辞退する<br>ドアの方へ向うセーラ | | セーラ「……いいえ……いいんです」 |
| 216 | セーラ　ドアを開けて、外へ | | S・E　（ガチャ） |
| 217 | 怪訝な顔で見送るおかみさん | | S・E(off)（扉の閉まる音・ガチャ） |
| 218 | 店外　セーラ、カサを取り、開くと、歩いて行く | | |
| 219 | 歩くセーラ　FOLLOW↖<br>手の銀貨を見る | | |
| 220 | 行くセーラ　行き交う人々 | | |
| 221 | ポストに近づくセーラ<br>ポケットから手紙を出すと、ポストに入れる　もどりかけるセーラ、立ち止まる | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 222 | セーラ　お金の事を一寸考えている　ふり向くと、口許に笑顔が浮んで…満足げな顔をして、歩いてくる | | セーラ「フフ…！」 |
| 223 | 歩くセーラの足　←FOLLOW | | |
| 224 | 教会　セーラ、来て立ち止まる | | |
| 225 | セーラ　見つめていたが、歩きだす | | |
| 226A | 教会の中　祭壇 | | |
| 226B | 老司祭の前に出るセーラ | | 老司祭「ほほう、拾ったそのお金を、寄附したいと云われるのじゃな」 |
| 227 | セーラ　老司祭に告げる | | セーラ「はい……どうしても落した人が、見つかりそうもないので、それで……」 |
| 228 | 老司祭　貧し気なセーラを見つめて | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 老司祭　優しい口調で<br>キョトンとするセーラ<br>きっぱりと言い聞かす老司祭 | | 老司祭「いや、落とされた方は、判っておる」<br>セーラ「え…?!」<br>老司祭「それは、きっと神様じゃよ」 |
| 229 | ポカンとなるセーラ | | セーラ「神様……?」 |
| 230 | 頷く老司祭 | | 老司祭「神様が、あなたのような心の美しい方に、おさずけになったのじゃ」 |
| 231 | ためらうセーラ | | セーラ「そんな…」 |
| 232 | 老司祭　セーラにお金を受け取るようにすすめる | | 老司祭「神様にえんりょは無用じゃ……さ、それでなにか買ってお食べなさい……それが一番神様がよろこんで下さる事じゃよ……」 |
| 233 | 銀貨を見つめていたセーラ、顔を上げる | | セーラ「司祭様……?!」 |
| 234 | 微笑んで頷く司祭 | | 老司祭「フフ」 |
| 235 | 美しいステンドグラス | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 236 | 暗い教会<br>正面の十字架と後のステンドグラスが明るくなっている | | |
| 237 | 茫然と出て来るセーラ　門前で立ち止る<br>手をひろげて銀貨を見る | | |
| 238 | 手の銀貨 | | |
| 239 | 見ていたが、振り返り教会を仰ぐ | | |
| 240 | 教会の塔 | | |
| 241 | 銀貨をにぎりしめると、思い切って歩き出すセーラ | | |
| 242 | 雨のロンドンの景色 | | |
| 243 | 歩いてくるセーラ　ふと立ち停まる　パン屋の前 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 244 | ウィンドーの中のパンを、枠に手をかけ、弱々しくひざをついて見つめている貧しい女の子 | | |
| 245 | ウィンドーの前　少女がびしょ濡れで中をのぞいている　裸足<br>セーラ　そっと近づく<br>少女　気配にハッとふり向く | | 少　女「ハッ！」 |
| 246 | セーラ　女の子を見つめて | | |
| 247 | 少女　髪、その他服からしたたり落ちる雫<br>少女　顔をそむけようとする<br>怪訝な顔で振り返る女の子 | | セーラ「…あの」 |
| 248 | セーラ　県命に明るくしようとしているが、女の子の警戒心のために、こわばる表情 | | セーラ「…あなた……おなかがすいているのじゃなくて？」 |
| 249 | 少女　壁に身をよせてる<br>かすかに頷く女の子 | | 女の子「すいている…とても……」 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 250 | 優しくたずねるセーラ | | セーラ「…お昼は……?!」 |
| 251 | 首を振って答える<br>うつむく　雨に濡れるほほや髪<br>の毛 | | 少　女「食べてない……朝だって、昨夜だっ<br>て……」 |
| 252 | セーラ　少女を見つめ直す | | |
| 253 | 少女　淋しげにうつむいている<br>↑P・D　裸足の足元 | | |
| 254 | セーラ　女の子を優しく見つめ<br>て | | セーラⓂ「……この子は、私より、もっとおな<br>かをすかせているんだわ。きっとそう<br>にちがいないわ…」 |
| 255 | セーラ　傘を差し出す<br>少女は、おびえてキョトンとす<br>る | | |
| 256 | 雨に濡れて空を見上げるセーラ<br>にっこり笑って | | セーラ「…ちょっとまっていてね」 |
| 257 | 唖然としてこっくりとうなずく | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 少女 | | |
| 258 | ニッコリして、急いで扉の方へ<br>行くセーラ | | |
| 259 | 店内　入ってくるセーラ<br>おかみさん、微笑ながら近づく<br>セーラ　おばさんに注文する | | おかみさん「まあ、やっぱり戻ってきてくれた<br>んだね」<br>セーラ「ええ…そのブドウパンを、四ペンス<br>分下さい」 |
| 260 | おかみさん　ニコニコして、パ<br>ンを取りに行く | | おかみさん「判ったよ…いま、焼きたてを入れ<br>てあげるからね」 |
| 261 | セーラ　店内に<br>外に、少女が様子を見ている | | |
| 262 | おかみさん　湯気の立っている<br>ぶどうパンを袋に入れると、セ<br>ーラの方へ近づく | | |
| 263 | | | おかみさん「さ、本当は四ペンスで四つだけど、<br>ひとつおまけしといたからね」 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | セーラ　銀貨を、おかみさんに渡して、パンの袋を受け取るとドアの方へ向う | | セーラ「ありがとう、おばさん」 |
| 264 | 見送るおかみさん | | |
| 265 | 店の外　出てくるセーラ、少女に急いで近ずく | | セーラ「さ、あたたかいぶどうパンよ」 |
| 266 | びっくりの少女 | | 少女「エッ！」 |
| 267 | にっこりと微笑むセーラ<br>袋からパンをひとつとり出す<br>ほほにあてるように<br>セーラ　少女に袋をさし出してすすめる | | セーラ「心配しないで…私も、ひとついただくわ」<br>セーラ「…あたたかい……。さ…どうぞ」 |
| 268 | キョトンとしていたが、恐る恐る手を差し出す少女<br>受けとる少女　袋ごと抱き、温かいので、目を細めうっとりとする<br>セーラを見て、傘を渡す | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 269 | セーラ　ニコリとして傘を受けとり、前に出て相々傘になる | | |
| 270 | 少女　袋から一つとり出し、匂いをかぐ　目を細め、うっとりする　セーラを見て、にっこりして、ガツガツと食べ始めるのどにつかえる | | 少　女「ゴホゴホ、おいしい…！」 |
| 271 | にっこりするセーラ | | セーラ「フフッ！」 |
| 272 | 相合傘の二人　ニッコリしている　立ち去るセーラ | | セーラ「よかった…さ、それは全部あなたの分よ。じゃ、元気でね」 |
| 273 | 去って行くセーラを見送る少女二、三歩、前へ行く | | |
| 274 | 少女　茫然として立ちつくしている　一口パンを食べる窓から、おかみと主人がその様子を見ている | | |
| 275 | おかみ　感心して | | おかみさん「…なんてこったろう……あの子っ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 亭主　考えている | | たら、表にいるあの子にみんなパンをやっちまったんだよ」<br>亭　主「ふうむ、判らねえなァ」 |
| 276 | 亭主　感心しつつ考えている | | 亭　主「あの子だって、お腹を減らしている様子だったのに、なんだって他の子にまで恵んでやっちまったんだろう」 |
| 277 | 表　じっとセーラを見送っている少女　奥におかみと亭主<br>店のドア開いて、おかみさんが<br>傘をさして近ずいてくる<br>「ハッ」としてふり返る少女<br>おかみさん　たずねる | | おかみさん「ちょっと、あんた……」<br>少　女「ハッ！」<br>おかみさん「あの子は、あんたにいくつパンをくれたんだい」 |
| 278 | オドオドしている少女　答える | | 少　女「…四つよ」 |
| 279 | おかみさん　びっくりして<br>おかみさん　顔を上げて<br>T・U | | おかみさん「じゃ、やっぱり。自分はひとつだけしかとらなかったんだね……ほんとは、全部だって食べられる程、おなかをすかしていたんだろうに……。全く、天使みたいな子だよ」 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 280 | 奥へ行くセーラ | | |
| 281 | 脅えておかみさんを見る少女<br>おかみ　優しく少女を見つめて<br>うれしそうに少女<br>頷くおかみ　たずねて<br>首をふる少女 | | おかみさん「いいんだよ。あんたは、それを全部食べても……」<br>少　女「ほんと……」<br>おかみさん「まだ、おなかがすいているかい？」<br>少　女「さっきほどじゃないわ」 |
| 282 | おかみ　少女に店内に入るようすすめる | | おかみさん「良かった……さ、お店の中へお入り、濡れた服をかわかしてあげるよ」 |
| 283 | ニッコリして礼を言う少女<br>もう一度、セーラの行った方を見る少女（明るい顔） | | 少　女「あ、ありがとう……」 |
| 284 | セーラの行った方　空が明るくなる<br>B G・O L | | |
| 285 | O・L<br>ミンチン女学院（夜）<br>雨やんでいる　屋根裏のみに灯り | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 286 | 屋根裏部屋　メル、そしてそのうしろに一家<br>セーラの手が、ぶどうパンのかけらをやる　それを持って奥へ行くメル | | |
| 287 | セーラとベッキー　ニコニコと見ている<br>顔を見合わせて、半分ずつにしたぶどうパンを少しずつ食べる二人 | | |
| 288 | メル　もう一度来ると、後ろ足で立つ | | セーラⓂ「その夜、私はとても満たされた思いでした……。例え、わずかなパンでも、あの少女や、メルの一家、そしてベッキーと分け合えた事で、私のおなかは、充分に満足だったのです」 |
| 289 | 今度は、ベッキーがぶどうパンのかけらをやる<br>それを持って、穴の方へ行くメル | | |
| 290 | 穴の中へ消えるメル一家 | | |
| 291 | 二人して、ぶどうパンのかけら | | ← |

| | |
|---|---|
| | を食べる |
| 292 | 満足そうなセーラ<br>F・O |

〈おわり〉